

# ニーズに応え、住み続けたい愛着のある街に

## 区有財産を受け継ぎ、次世代の希望を叶える



### 目黒川の桜

「うわあ！ 見事なサクラ並木だ。老若男女、それに多くの外国人が行き交っている。ここは一体どこなんだろう」

周りを見渡すと、橋のもとに「桜樹記念碑」がありました。そこには「昭和の初めに行われた目黒川の初期の改修に合わせて、地元の有志の方々により植樹されたサクラを記念して建てられた」と記されています。

過去には度々、氾濫を起こした目黒川。長年に渡る護岸改修工事を経て、約3・8kmの沿川に800本のサクラが植えられ、現在では街のにぎわいの原動力になっています。落語の「目黒のさんま」は知って

いたけれど、こんな名所があるなんて…。俄然、目黒区に興味を湧いてきた二男くんは、中目黒駅からほど近い目黒区総合庁舎を訪れることにしました。

二男くんは目黒区総合庁舎を訪れると、1階にある区政情報コーナーを訪れました。職員から「目黒区人口ビジョン 目黒区まち・ひと・しごと総合戦略」を受け取り、さっそく読み始めました。

### 合計特殊出生率は1・05まで回復

まずは「人口ビジョン」を読みましょう。

戦後、目黒区の人口は上昇を続け、特に1950（昭和25）年から1960（昭和35）年において急激

な人口増加傾向を迎えました。その後、人口の伸びは鈍化し、1965

（昭和40）年の29万8774人をピークとして減少に転じ、1995（平成7）年には24万3100人となりました。その後、再び増加傾向となり、2010（平成22）年には26万8330人まで回復しました。

「人口ビジョン」で年齢別の人口移動の状況を見ると、10歳代から30歳代で転入超過傾向にあります。それ以外の年代では転出数が転入数を上回っています。特に、20歳代の大幅な転入超過により全体として社会増を維持していることが分かります。また、自然増減の分析では、

2006（平成18）年以降、出生数が死亡数を上回る自然増の傾向があります。死亡数は増加しているもの

の、近年は、出生数も増加傾向にあるとしています。

合計特殊出生率は、2002（平成14）年に0・68まで低下しましたが、2014（平成26）年には1・05まで回復しています。

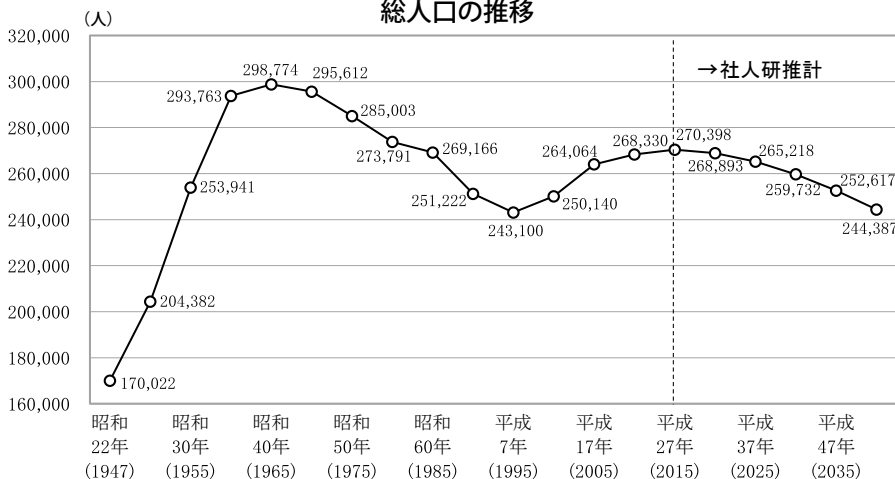
### 目黒区独自の総人口推計

一方、「人口ビジョン」では、目黒区が男女ともに平均初婚年齢が高いことも指摘されています。2010（平成22）年の目黒区の50歳の女性は、22・8%が結婚の経験がないと推計されており、全国と比べて女性の生涯未婚率が高いとされています。

さらに、2013（平成25）年における母親の年齢別出生数の割合を見ると、全国と比較して30歳以上の



総人口の推移



(出典)昭和22(1947)年～平成22(2010)年:総務省統計局「国勢調査」  
平成27(2015)年～平成52(2040)年:社人研「日本の地域別将来人口推計(平成25(2013)年3月推計)」

割合が高くなっており、晩産化が進んでいることも指摘されています。目黒区が独自に行った総人口推計では、近年の転入超過傾向により、将来における総人口のピークが後ろにずれ込む見込みです。また、合計特殊出生率が1・50まで改善すると、さらに後ろにずれ込むことが予想されています。

### 希望出生率1・50の実現を目指す

目黒区を縦断する東急東横線は、首都圏でも有数の住みたい路線となっており、特に中目黒や自由が丘は常に住みたい街の上位にランキングされています。また、おしゃれで治安も良い街としてのイメージも定着しており、特に20～30代の女性で転入数が多くなっています。目黒区の意識調査によると、未婚者や離婚・死別の既婚者の約8割が結婚を望む結果となっています。しかし、目黒区の生涯未婚率は上昇を続け、2010(平成22)年の国勢調査では20%を超えています。

こうした状況について、「人口ビジョン」では、「結婚や出産は個人の自由な意思によって決定されるべきことであり、結婚や出産を望まない人もいます。一方、意識調査によれば多くの人が結婚や出産を望み、そのうち子どもを望む人の多くが2人の子どもの希望しています。合計特殊出生率の低さを考えれば、希望と現実の間にギャップがあることが推察されます」と分析しています。

### 三つの基本目標を設定

「総合戦略」では、三つの基本目標を設定しています。基本目標1は「安心して結婚・出産・子育てができるまちをつくる」です。待機児童対策は喫緊の課題です。安心して子どもを預けられる場所があることが、結婚や出産の希望をかなえることに通じるとともに、仕事と子育ての両立につながります。

また、妊娠から出産、子育てと切れ目ない支援のため、きめ細かい情報提供や相談支援等の充実を図る必要があります。

基本目標2は「住み慣れた地域で生活し続けられるまちをつくる」です。目黒区の定住意向は95・2%と非常に高いです。誰もが生き生きと快適に、住み慣れた地域で生活し続けることができる地域社会の構築が

重要です。基本目標3は「新たなにぎわいの創出と多様な人と人との交流を促す」です。人が集まるところに「にぎわい」が生まれ、多様な人と人との交流が目黒区と他の地域とのつながりになり、まちの活気となっていきます。

### 依然として多い待機児童数

二三男くんは、具体的な施策を調べてみました。

目黒区は、住みたい街のランキングでは上位に入り、若い世代に人気の自治体です。一方で、子育て世帯が増えて、区内に保育所の受け皿が足りなくなっています。2017(平成29)年4月の待機児童数は617人と過去最大となりました。2017(平成29)年度中には私立認可保育所11カ所の整備や定期利用保育の活用により、新たに744人の保育施設の定員を確保しました。その結果、2018(平成30)年4月の待機児童は330人と前年比46・5%の減少となりましたが、待機児童数は依然として多いのが現状です。



目黒区役所の未利用地を活用した中目黒ちとせ保育園（後方の建物が目黒区総合庁舎）

## 区有地を活用した保育所整備

目黒区は、区域の8割が住居系の用途地域で、認可保育所を整備できる大規模な土地を確保することが難しいのが現状です。そのため、膨れ上がる保育ニーズに何とか応えようと、区有財産を活用して、保育園を整備しています。

例えば、目黒区総合庁舎の傍らにある中目黒ちとせ保育園（定員60人）は、2017（平成29）年4月に開園しました。この用地は、総合庁舎の駐車場の一部を活用しています。施設を運営するのは、認可保育所の運営実績のある社会福祉法人です。

区役所の敷地にありますが、区職員向けに限定した保育所ではありません。東急東横線の中目黒駅から徒歩近く、利用者にとって便利な立地です。区は2020（平成32）年4月の保育所待機児童ゼロに向けて、区有施設の活用や民間賃貸物件の活用、認可外保育施設の認可保育所への移行、区立保育園の民営化に伴う整備支援などにより、今年度は過去最大となる約1100人分の保育所整備を行っています。

## 園庭のない保育所から公園に送迎

また、目黒区には十分な広さの園庭がある保育所が少なく、私立認可保育園の約8割が近隣の公園などを屋外遊戯場に指定して認可を受けています。駒沢オリンピック公園や駒場野公園など、園児が徒歩で行くことができない広い公園で、子どもがのびのびと遊べるように、幼児専用車（愛称「ヒーローバス」）で送迎する事業を全国で初めて実施します。

この事業の一環として、クラウドファンディング型ふるさと納税の仕

組みを使い、寄付を募っています。2018（平成30）年8月、クラウドファンディング専用ページを開設。11月以降、今年度予算で計上した1台の幼児専用車の試行運行が始まります。

## 特養ホームでも区有財産を活用

区有財産を活用したハード整備は、特別養護老人ホームの施設整備でも同じです。

旧区立第六中学校南側跡地では、区が選定した事業者による民設民営の特別養護老人ホームの整備を支援します。2019（平成31）年7月の開設を予定しています。学校統合による区立第四中学校跡地においても同様に、区が選定した事業者による特別養護老人ホーム・身体障害者入所施設等複合施設の整備を支援します。地域交流の場や地域の福祉拠点、福祉避難所とし、地域に開かれた施設を目指しており、2020（平成32）年度の開設を予定しています。

このほか、目黒三丁目の国家公務員宿舍跡地を活用した、民設民営による特別養護老人ホームの整備を支

援します。2020（平成32）年度の開設を目指しています。

二三男くんは「目黒区を好きになつて転入してきた人たちに住み続けてもらうため、区の財産を次世代に受け継ぎ、有効に活用しているのが分かる」と、感心しました。

## 地域の人たちとサククラ並木を再生する

二三男くんは、目黒川沿いのサククラ並木を思い出しました。



旧区立第六中学校南側跡地に整備される特別養護老人ホームのイメージ図





サクラの保全に向けたサクラ診断見学会

「目黒のサクラ」も目黒区の大切な財産です。区役所のみどり公園課に聞いてみると、目黒区は区民や団体からの寄付を「目黒のサクラ基金」として集め、地域の人たちとサクラの再生に取り組んでいます。

2018（平成30）年度は、呑川本流緑道、立会川緑道のサクラ再生実行計画を策定します。樹木診断の結果により倒木の危険のあるサクラの伐採や、再生実行計画に基づいた



植え替えなどのサクラ保全工事を行っています。これも分野は異なりますが、区の資源を次世代に受け継ごうとする取り組みの一つです。

二三男くんは「目黒区はおしゃれな街として有名で、新宿や渋谷などの繁華街にも電車1本で行ける交通が便利な街だから、多くの若い世代が住んでみたいと思う。でも、そういう人たちにずっと目黒区に『住み続けたい』と思ってもらえるのは、区民のニーズに応えようとする区の努力があつてこそだ。区有施設など区の財産を次世代に受け継いで、そうしたニーズに応え、区民の希望を叶えていく区政に共感した」と語りました。

二三男くんは、読んだ資料を窓口に戻すと、「よし、今日はお花見しよう」目黒川へと小走りで向かいました。

## 次世代につなぐ国際交流



バスケットを通じた3カ国間の国際交流



目黒区と中国北京市の東城区、韓国ソウル特別市の中浪区との三区間交流事業として、三カ国によるバスケットボール大会と文化交流が2018(平成30)年7月に開催されました。東城区は目黒区の友好都市、中浪区は東城区の友好都市で、目黒区とも友好増進及び交流協力の覚書を取り交わしています。

青木英二区長は開会式で、「同じ東アジアに住む三区の次代を担う子どもたちにとって、大変意義のあるもの」と話しました。

文化や言葉は異なっても、共通のルールがあれば交流を深め、お互いを理解するきっかけとなります。こうした若い世代の三カ国間の交流が住民同士、自治体間同士の交流へつながることが期待されています。